



つなごろう

CO・OP アクション情報

2012年11月28日

第 23 号

二度と悲しい思いをしないように

「桜ライン 311」(津波到達ラインへの植樹)に、いわて生協職員参加



植樹の方法を教わったあと、各団体に分かれ植樹を行なった。

11月17日、いわて生協職員を含めた71人が「桜ライン311」の植樹活動に協力しました。少し寒い空の下、参加者は1本1本丁寧に木を植えていきました。



いわて生協職員は、4カ所の植樹を行なった。

「桜ライン 311」とは、陸前高田市内約 170km に渡る津波の到達ラインに沿って、10m おきに桜を植樹する活動のことです。これは、桜並木を作ることで、「津波の恐れがあるときには

その並木より上に避難する」よう伝承していくことを目的とした、特定非営利活動法人 桜ライン 311 の取り組みです。

2011 年 11 月 6 日から植樹活動が始められ、「2011 年秋の植樹」で 57 人、「2012 年春の植樹」で 466 人の参加者がありました。

11 月 17 日には「2012 年秋の植樹」が行なわれ、71 人が参加。いわて生協からも、職員 5 人が参加しました。所定の場所に穴を掘り、苗を植えて、水をやります。

参加者の 1 人、いわて生協・住まいと暮らしのサービスセンター長の岩崎正美さんは、「いつも全国の生協さんから支援をいただいています。この取り組みにも、全国各地から多くの人々が駆け付けていました。あらためて全国の強いつながりを感じました」と話します。

同センターの内館祐香さんも、「桜を植えたラインは、海から随分離れていたことに衝撃を受けました。この桜ラインが少しでも後世に役立ったら」とその思いを話してくれました。